

平成 22 年度 事務事業事後評価調書 (平成 21 年度事業)

整理番号 2 - 13

1 事務事業の表示

該当

事務事業名		移住支援お試し暮らし事業				
評価者	担当課名		財務企画課	担当係名		企画調整係
	管理職	職名	課長	作成者	職名	係長
		氏名	原 正美		氏名	澤田朋朗
事業の概要		雄武町への移住希望者に対して町の情報を提供するとともに、一定期間、生活体験できる機会を提供することで移住を促進し、定住人口の増加と地域経済の活性化を目的とする事業である			全体計画 (平成 21 年度 ~ 24 年度) 事業費 国・道支出金 千円 地方債 千円 その他 千円 一般財源 千円 事業費計 千円	
実施方法		直営	民間委託	その他 ()		
第 5 期 総合計画 (前期)		登載事業		非登載事業	優先度	C
事業の位置付け		政策目標	4	うるおい・雄武 ~ 生活環境・生活基盤の充実 ~		
		基本施策	18	住環境の整備		
		単 位 施 策	1	良好な住宅・宅地の供給		
		事務事業の種類		自治事務	法定受託事務	
		その他計画・根拠等	雄武町お試し暮らし事業実施要綱			
事業費	実施年度	20年度(実績)	21年度(実績)	22年度(見込)	23年度(計画)	24年度(計画)
	国・道支出金	千円	千円	千円	千円	千円
	地方債	千円	千円	千円	千円	千円
	その他財源	千円	千円	千円	千円	千円
	雄武町負担額 (一般財源)	千円	千円	千円	千円	千円
	合計	千円	千円	千円	千円	千円

2 事務事業の目的・内容 (Plan・Do)

【誰、何が(対象)】	雄武町へ移住を希望、検討する町外の人	望ましい指標(目的達成状況を最も端的に表す理論上の成果指標)		
【抱える課題やニーズは】	過疎化による人口減	移住相談件数、移住体験者数		
【どのような状態になることを目指したのか(意図)】	移住希望者が、雄武町への移住を検討した結果、実際に居住してもらう	指標(指標計算式/解説)	目標値及び実績値	
		移住相談件数	目標年度	平成21年度
			目標値	3 件
			実績値	2 件
達成度	67 %			
【その結果、どのような成果を実現したいか】 成果 = 目的	雄武町の人口増、観光振興とその波及効果が得られ、地域経済の活性化が図られる	移住体験者数	目標年度	平成21年度
			目標値	3 人
			実績値	1 人
		達成度	33 %	
内 容(どのような手段で何を行ったか)				
町、移住体験情報の提供	町ホームページ及び「移住相談ワンストップ窓口」の開設による北海道のホームページとのリンク、移住・交流推進機構(JOIN)への加入するなど情報提供を行っている			
移住体験住宅の提供	生活に必要な最低限の設備を完備した、第2種普通財産である町所有の住宅1戸を提供した			

3 事務事業の評価(Check)

(1) 事務事業の必要性(町民ニーズ・社会情勢に照らして妥当か、町が担う必要があるか、当該事務事業を実施しない場合の支障、既存事務事業との機能重複や見直しによる対応可能性)

必要 必要 / 概ね必要 / 課題あり	<input type="checkbox"/> 義務的なもの	民間に類似した事業がなく、定住対策は町の重要な施策であること、国・道の機関との連携により推進する必要があることから、行政にて実施する必要がある
	<input type="checkbox"/> 全部 <input type="checkbox"/> 一部	

(2) 事務事業の有効性(期待する効果が得られたか)

概ね有効 有効 / 概ね有効 / 課題あり	設定した目標値の達成状況	指標の設定について、情報提供先として不特定多数の人を対象としており定量的設定は難しいものの、年間のうち冬期間を除く3ヶ月間の3サイクルにそれぞれ1件の割合での相談件数設定とし、導入初年度としては概ね有効であるものと判断する
	<input type="checkbox"/> 達成 <input type="checkbox"/> ほぼ達成 <input type="checkbox"/> 下回る	

(3) 事務事業の効率性(コストに見合った効果が得られたか、計画上のコストを下げる工夫をしたか)

効率的 効率的 / 概ね効率的 / 課題あり	判断の理由	移住体験者からの受益者負担により住宅を使用させており、財源充足による経費の発生はなく効率的である
	<input type="checkbox"/> 事業費抑制 <input type="checkbox"/> 人員削減 <input type="checkbox"/> 時間短縮・作業軽減 <input type="checkbox"/> その他	

(4) 事務事業の公平性

公平 公平 / 概ね公平 / 公平でない	判断の理由	移住体験者からは利用期間に応じた使用料を徴しており、行政サービスの受益者が対価をすべて負担していると判断し、公平である
	<input type="checkbox"/> 受益者負担がある <input type="checkbox"/> 受益者負担がない <input type="checkbox"/> 受益が一部に偏る <input type="checkbox"/> その他	

4 総合評価(A～D)

- A: 計画通り事業が進んでいる。目標が達成された。今後も計画通り事業を進めることが適当 等
 B: ほぼ計画通りに進んでいるが目標に達成していない。事業の進め方に改善が必要 等
 C: 当初の計画を達成できていない。事業規模、内容、実施主体等の見直しが必要 等
 D: 事業効果が表れていない。事業の統合、休・廃止の検討が必要 等

自己評価(一次評価)	評価会議評価(二次評価)	町長評価(三次評価)
A		
情報提供の対象が不特定多数の人であり、定量的設定は難しいものの、年間のうち冬期間を除く3ヶ月間の3サイクルにそれぞれ1件の割合での相談件数設定とした場合の実績として、導入初年度としては概ね有効であったものと判断する		



継続 / 現状維持		
現行の情報提供に加え、町外者が不特定多数利用する町内の観光拠点、道の駅等への情報媒体を配備、札幌・雄武会のホームページからの情報発信等を試みる		

* 展開方向の区分

継続 / 現状維持又は拡充又は縮小又は統合又は内容の見直し・変更 終了 休止 廃止

5 その他特記事項 (アンケート調査など外部評価を受けた場合は、その旨記入)

--